

【香川オリーブガイナース賞】

障害者だから

善通寺市立東中学校 一年 大西紫來

私は二歳下に妹がいます。妹には生まれつき耳が聞こえにくい障害があります。そのため妹は補聴器をつけて生活しています。エスディーズにも目標十「人や国の不平等をなくそう」という目標が掲げられています。そのためか少しづつ障がいのある人や外国の人、お年寄りの人たちへの理解もだんだん広がっています。

しかし、理解してくれない人たちもまだまだいます。妹が小学二年生のときお母さんと妹と一緒にスーパーへ買い物にいきました。その日のスーパーは、いつも以上に混んでいました。そのため、妹はぶつかりそうになったりフラついたりしていました。すると二、三人のおばさんが、「危ないわね。やだ！補聴器つけてるわ。」「え〜最悪。」といろいろ言われてしまいました。自分に言われたことではないとはいえ、「障害者だから」というだけで、妹がこんなに言われてすごく辛かったのを覚えています。なぜ、障害者と健常者が全く違う人間だと思う人がいるのだろうか、とよく思います。

私は、障害者を「健常者じゃないから」ただそれだけの理由で差別するのは何でそんなことをするのか信じられません。だからといって、障害者が身近にいない人にとってはどんな対応をしたらいいのか分からないと思います。変に手を出しても逆に相手が困ってしまうのではないかと思いました。それならば、何ができるのだろうかと考えました。私が考えたことはいくつかあります。

一つ目は、たくさん気をつかうのではなく、他のみんなと同じように接することです。障害者と他のみんなは違うから、なんて思ってたくさん気を使いきても相手もあまりよくは思わないと思います。な

ので普通に接することをこころがけるようにすれば、相手もきつとあまり気を使うことがないんじゃないかなと思いました。

二つ目は、笑顔で接することです。障害者ではなくたって、嫌そうな顔をされてしまうとあまり良い印象ではありません。障害者で困っている人を助けることはとつてもすてきなことです。でも面倒臭そうな、嫌そうな顔をされると助けられていてもあまりいい気はしないはずです。しかし、笑顔で対応をすると、とても気持ちがいいと思います。

三つ目は、「障害があるから」というそれだけの理由で差別しないことです。私はこれが一番大切なことだと思います。差別されて嫌な思いをしない人はいません。「障害があるから」なんて差別していい理由にはなりません。

四つ目は、障害があり、困っている人をみてみぬふりをしないことです。最近ではスロープや点字ブロックなどバリアフリーのものがいろいろと沢山あります。ですが、だからといって全く困らないわけではありません。車いすにのっていると、物が高いところにあつてとどかなかつたり、物をおとしてしまふとひろうのが大変だったり、耳が不自由だと、放送や呼びかけに気がつかなかつたりなど他にも沢山不便なことがあります。そんな困っている時に助けてもらえると、きつとうれしいと思います。

しかし、「障害者はみんな困っている！障害者がいたらなんでもやってあげないと！」そういうわけではありません。障害があつても自立している人もいるし、自分でやりたいと思う人もいます。「じゃあどうすればいいんだ！」そう思うとおもいます。私は、障害者がいたら、まず声をかけたらいいと思います。そうすることで相手が助けを求めているか分かるし、コミュニケーションをとることによって、相手の緊張がすこしでもゆるむといいなと思うからです。そしてこの時に、

二つ目に紹介した「笑顔で接する」を実行すれば、きっといいと思います。

このように、私たちにできることはいくらかでもあります。一人一人がこころがければ、世界はきっと変わります。そして、健常者も障害があっても、国が違っていても、年が離れていても、みんな同じ人間です。決してこれらのことは差別していい理由になんてなりません。みんな同じ仲間なのだから、互いに尊重して生きていかなければなりません。これは、一人でやろうとするには難しいことです。だからこそ、みんなを理解していくことが大切なんです。

最近では、妹は理解のある仲のいい友達ができたようで毎日楽しく過ごすに過ごしているそうです。

みなさんには、これらのことを頭に入れて生活してほしいです。そうすればきっと、みんなが笑顔でくらする明るい世界がやってくるから。